

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長 石井 正弘
(参議院議員)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年来、新型コロナウイルス感染症により、農林水産業を含め経済・社会に大きな影響が生じています。大変厳しい状況の下、現場でご尽力している方々に深く敬意を表します。

さて、本県に多く存する農業用ため池は、平成30年に西日本を中心に甚大な被害が発生し、全国のため池関係者の方々からため池の防災工事を推進するための財政的・技術的な支援を求める声が高まったことから、防災重点農業用ため池に係る防災工事等を集中的かつ計画的に推進することを目的として「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」が昨年6月議員立法として成立、同年10月施行されました。

また、昨年12月に閣議決定した防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の一つとして、今後5か年で重点的かつ集中的に予算確保される見込みであり、ため池の防災減災対策の加速化が期待されています。

当県では、9,700箇所余りの農業用ため池があり、この内約4割が決壊した場合に人的被害を与える恐れがある防災重点農業用ため池であります。一昨年会に設置されました「岡山ため池保全管理サポートセンター」は、管理者からの相談業務に加え、ため池の廃止や改修、統廃合等の提案を積極的に行うなど、安全性の確保対策に引き続き積極的に取り組んでまいります。

次に昨年末に決定した、令和3年度農業農村整備事業関係当初予算は4,445億円、これに令和2年度補正予算を加えますと、6,300億円が確保することができました。これも、皆様のご理解ご協力と、熱心な要望活動の成果と感謝申し上げます。

また、昨年11月末に、土地改良業務に携わる女性のネットワークを広げ、情報の共有や連携の強化を図ることにより、女性が活躍しやすい環境づくりを進めていくことをめざして、「おかやま水土里ネット女性の会」が設立されました。女性の情報ネットワークを生かし各地域の農業・農村振興の大きな力となることと期待しています。

我々県土連も創立から63年目を迎えましたが、今後も会員の要望に応えるべく一層努めてまいります。会員各位のより一層のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後になりましたが、1日も早くコロナ禍が収まり日常が戻りますよう、また皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和3年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが世界各国で感染拡大し、新しい生活様式、新しい仕事の仕方が求められる等、これまで経験したことのない一年となりました。

また、7月の豪雨や台風による暴風雨により、全国で多くの被害が発生しました。お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

被災された方々の生活を一刻も早く回復していくためには、被害を受けた農地や農業用施設の復旧・復興が第一に重要であり、日頃から土地改良に携わる皆様方には、全国各地で復旧・復興の先頭に立っていただいていることについて、心から敬意を表します。

全国で32カ所のため池が決壊した「平成30年7月豪雨」を契機として、全国のため池の関係者の方々から、ため池の防災工事を推進するための財政的・技術的な支援を求める声が高まり、昨年6月、ため池に関する特別措置法が議員立法として成立致しました。この議員立法の成立には、多くの国会議員の皆様の御尽力を頂きましたが、中でも進藤金日子・宮崎雅夫両参議院議員には、法案の検討段階から中心となって御活躍頂きました。土地改良関係者が一丸となって、全力で対応した結果であったと思います。心から厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和3年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、4,445億円を確保することができました。さらに、令和2年度の補正予算を含めると6,300億円となります。また、防災・減災の為に国土強靱化対策が延長され、新たな5ヶ年加速化対策として、15兆円が予算化されることとなりました。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

また、近年、自然災害が大規模化、多発化する傾向にあり、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いています。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、昨年3月に新しい「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、農業者はもとより国民の皆様方に農業・農村の現状、課題を理解いただき、食糧供給や国土保全などの多面的な役割を果たす農業・農村は「国の礎」との認識を分かち合い、国民全体で農業、農村を次の世代につないでいくこととされました。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 **進藤 金日子**

新年明けましておめでとうございます。岡山県の皆様には、昨年の「進藤金日子と農山漁村を考える会」等の政経セミナーへのご協力をはじめ、日頃から大変お世話になり、新年を迎えるに当たり衷心より感謝申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。昨年、新年を迎えた時には、まさかこのような事態に陥るとは誰もが想像だにしていなかったと思います。まずは、このコロナ禍を国民一体となって乗り越え、克服することが最重要課題です。

さて、令和2年度第3次補正予算と令和3年度予算の政府案が閣議決定されました。まずは、3か年緊急対策に引き続き「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が事業規模15兆円程度で実施されることになりました。土地改良予算に関しては、令和3年度に執行可能な予算として全国各地域の要請に基づき、補正と当初を合わせて6,300億円確保できました。令和2年度第3次補正予算は1,855億円であり、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施関連で700億円、防災・減災、国土強靱化と災害復旧の推進関連で1,155億円計上されています。また、令和3年度予算は4,445億円であり、食料安全保障の確立と国土保全等を図ることが明確化され、収益性・防災性の向上に資する農地の大区画化、水田の畑地化・汎用化、農業水利施設の維持・保全等を実施する土地改良事業を重点的に推進することとしています。また、防災・減災、国土強靱化の推進に関連して、激甚化する災害に備えるため、ため池や農業水利施設の整備を推進することとしています。更にポストコロナを見据えた農村の定住条件を整備する農村整備事業も盛り込まれています。これら予算案については、通常国会で審議されますが、まずは令和2年度第3次補正予算の早期成立に向けて全力を尽くし、令和3年度予算の年度内成立に向けて努力して参る所存です。

去年は、宮崎雅夫参議院議員と連携して一定の成果を出すことが出来ました。「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」の議員立法による制定、自民党農村基盤整備議員連盟（二階俊博会長）として「農業農村の振興を先導する土地改良」（全国事例集）の発刊ができたこと、自民党女性局機関誌の「りぶる」での土地改良特集の実施などが挙げられます。加えて、土地改良関係者をはじめ多くの方々から様々なご意見をお聴きし、こうした声を国会質問に反映したり、自民党部会等で発言したり、農水省に直接伝えることなどにより、課題解決の一助となった例も多くなりました。引き続き緊張感を持って農業・農村の振興に向け、しっかりと活動を進めて参る所存です。

岡山県の皆様にとって本年が素晴らしい年でありますよう祈念いたしますとともに、更なるご指導とご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
衆議院議員 宮崎 雅夫

明けましておめでとうございます。岡山県の土地改良関係の皆さまに謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆さま方には、平素より土地改良の推進、農業農村の活性化にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、私の国政活動に甚大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。また、去年は全国的に新型コロナウイルス感染症や豪雨災害など、例年にも増して厳しい状況に見舞われましたが、影響や被害等に遭われた方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、速やかな回復や復旧に向け私も最大限の努力を怠りません。

さて、昨年の通常国会では、近年の頻発化、激甚化する自然災害対策への全国各地からのご要望を踏まえ、進藤金日子参議院議員と取り組んだ議員立法「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」の成立により新たな法的枠組みをつくることができました。これを受けて11月には農林水産大臣、総務大臣、防災担当大臣による三大臣会合が持たれ、地方財政措置の拡充など事業推進に向けた対応が進められています。

また、皆さまが特にご関心の、防災・減災、国土強靱化対策については、現行の3カ年緊急対策に続き令和7年度までの5カ年加速化対策として、激甚化する風水害等対策、予防保全に向けた老朽化対策、国土強靱化対策のデジタル化など、取組のさらなる加速化、深化を図ることとしており、防災重点農業用ため池や農業水利施設等の老朽化対策、予防保全が加速化されることとなります。

農業農村整備関係予算については、皆さま方のご尽力をいただきながら、総額6,300億円（当初4,445億円、補正：国土強靱化加速化対策1,155億円、TPP対策700億円）を確保することができました。1月に開会される通常国会では、これら予算ならびに関連法案の早期成立に向け、引き続き努力して参る所存です。

また、コロナ禍の中で生まれつつある都市から農村への人の流れをとらえ、農村インフラの持続性確保や情報通信環境整備などにもしっかりと取り組んでいかなければなりません。さらに、多くの食料を海外に依存している我が国にとって食料安全保障は重要な課題であり、食糧自給率向上に向けた取組と併せて生産性の高い農地や農業水利施設を次世代にしっかりと引き継いでいかなければなりません。これからも進藤金日子議員とともに、農業農村を守り発展させていくため、土地改良の計画的な推進と予算の安定的確保に向け、皆さま方からご指導をいただきながら努力してまいります。

結びに、岡山県の皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念するとともに、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ新年の挨拶といたします。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 槇尾 俊之

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

農林水産業や農山漁村は、私たちの生活に欠くことのできない食料などの生産を行うとともに、県土や自然環境の保全など、県民の生活に密着した多くの機能や役割を有しています。一方で、農林水産業を取り巻く状況は、人口減少や高齢化による担い手の減少、荒廃農地の増加など厳しさを増しております。また、新型コロナウイルス感染症の影響が農林水産業にも及んでおり、予断を許さない状況が続いています。

このような中、県では、現在策定を進めている県政推進の羅針盤となる「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」や、本県農林水産行政の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、国内外におけるブランド力の強化のほか、次代を担う力強い担い手の確保・育成、市場ニーズに対応できる供給力の強化、農林水産業を支える生産基盤の整備を進めるとともに、知的財産の保護・活用やスマート農業の推進といった、新たな時代の潮流・変化を踏まえた施策展開を図るなど、儲かる農林水産業の加速化を図ってまいります。

本県が誇る桃やぶどうなどの産地形成には、農地の確保や農業用水の安定供給を行う農業生産基盤などの整備が大いに貢献してきたところです。

しかしながら、こうした産地を支えてきた農業水利施設などの農林水産施設の老朽化が進んでいることから、施設の機能が適切に発揮され、産地の持続的発展が図られるよう、引き続き、長寿命化対策に積極的に取り組んでまいります。

また、儲かる農業を実現するため、担い手への農地の集積・集約化や市場ニーズに応じた高収益作物の導入に必要な農地の大区画化や排水対策、水管理の省力化などの農業生産基盤の整備を推進してまいります。

さらに、頻発化・激甚化する豪雨や大規模地震等、自然災害から農山漁村を守るため、農業用ため池の改修・廃止や排水機場の整備、治山ダムの整備や海岸保全施設の整備等の防災・減災対策を一層進めるとともに、実施にあたっては、ソフト施策や関係部署と横の連携を一層強め、地域農業の目指す方向に沿って事業を進めていくこととしております。

本年も、関係団体の皆様方と連携しつつ、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して取り組んでまいりる所存でありますので、引き続き力強い御支援、御協力をお願いいたしますとともに、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 堀田 忠弘

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別のご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各方面では大変厳しい状況となっており、また、5年ぶりに高病原性鳥インフルエンザが県内の養鶏場でも確認されるなど、昨年はウイルスに翻弄された一年となりました。県では、県民の命と暮らしを守る対策に全力で取り組んでまいり所存です。

さて、国は、昨年3月に今後10年間の農政の指針となる「食料・農業・農村基本計画」を5年ぶりに改訂し、今回は「我が国の食と活力ある農業・農村を次の世代につなぐために」と初めて副題が付けられました。日本の農業・農村は、農業者の減少や高齢化、農地面積の減少、頻発する自然災害など、多くの課題を抱えています。また、本県も含めた全国において、解決に向けた取組を今後より一層加速させていく必要があると感じています。また、現在、新たな「土地改良長期計画」の策定について審議が行われていますが、農業農村整備の今後5年の指針が決まるとあって、その動向を注視していきたいと思っています。

一方、本県におきましても、来年度からスタートする「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」の策定に向けて、現在作業を進めているところです。引き続き“儲かる産業としての農林水産業の確立”を目指し、中でも農業農村整備分野では、農業を支える生産基盤の整備や施設の長寿命化対策、防災・減災対策等、様々な施策に取り組んでまいり所存です。

話は変わりますが、昨年11月末、水土里ネット業務に携わる女性が活躍しやすい環境づくりを進める目的で「おかやま水土里ネット女性の会」が設立されました。私も設立総会に出席させていただきましたが、これからの令和の時代、水土里ネット業務にも女性ならではの発想、発信力が大きな力になってくるのではないのでしょうか。県といたしましても、何か力になれることがあればサポートさせていただきたいと思っています。

本年も土地改良区や市町村の皆様方と連携をより深めながら、地域の描く農業が実現し、元気で活力ある農業・農村となるよう、全力を尽くしてまいりますので、会員の皆様のご更なるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますよう、また、新型コロナの影響が一日も早く収束することをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 細川 信佳

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、幸多き新春を迎えられたこととお喜び申し上げますとともに、日頃から農業農村整備事業の推進に当たりまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに対し、深く感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響から、多くの制約がある中で、普段とは異なった対応が求められるなど、大変ご苦労されたことと存じます。

また、7月の九州地方での豪雨災害など、全国各地で大きな被害が発生しました。本県では平成30年7月豪雨からの復旧が続いている中ではありますが、多くの自治体から支援を受けた恩返しの意味も込めて、熊本県へ応援職員を派遣しているところであります。

さて、国は、一昨年の「ため池管理保全法」に加え、昨年10月に「ため池工事特措法」を施行し、適正な管理と防災重点ため池の廃止や整備を推進することとしており、昨年12月に決定した「防災・減災、国土強靱化のための加速化対策」の一つとして、今後5か年で重点的かつ集中的に予算が確保される見込みであり、より一層、ため池の防災減災対策の加速化が求められております。

県においても、県内のため池約9,800箇所約4割が決壊した場合に人的被害を与えるおそれのある「防災重点ため池」であり、そのうち約550箇所は安全確保対策が必要なことなど、早急な対策の推進に向けて、今年度から耕地課内に「ため池対策班」を設置するとともに、県土連の協力により設置している「岡山ため池保全管理サポートセンター」の機能を強化し、従来の相談業務に加え、管理者等へ廃止や改修、統廃合等の提案を積極的に行うなど、ソフト・ハードの両面から安全性の確保対策に取り組んでおります。

また、基盤整備では、県農林水産行政の基本計画である「21おかやま農林水産プラン」に示している、地域が描く将来の農業に最適な整備となるよう、ソフト施策と十分連携を図り、農地の大区画化や野菜等の収益性の高い作物の導入のための農業生産基盤の整備に取り組むとともに、老朽化による機能の維持が課題となっている畑地かんがい施設等の基幹水利施設については、地域農業の持続的発展が図られるよう、重要度や緊急度に応じた最適な規模での計画的な保全対策を着実に進めてまいります。

中でも、選果場を核とした5ha以上の産地育成のために、農地や施設、機械の整備に加え、担い手確保に向けた研修ほ場の設置や研修生用の住宅整備などを一体的に行う市町村の取組を、県関係課が横断的に支援する「ハイブリッド産地育成推進事業」として重点的に進めており、耕地課では、水田の畑地化などの基盤整備を通じ、桃やぶどう等の供給力強化と担い手の確保育成に積極的に取り組んでまいります。

末筆ながら、本年が皆様にとりまして幸多き発展の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年ごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 有元 寿登

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より農業農村整備事業を通じて、本県の農業・農村の振興に、ご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活や経済活動がこれまでに経験のない影響を受ける中、一方で新しい生活様式が定着し、テレワークや時差出勤など働き方の変化、キャッシュレス決済の浸透など、ポストコロナを見据えた社会構造の変化が進んだ一年となりました。

さて、昨年公表されました2020農林業センサスでは、本県の農業経営体数は28,707経営体（前回調査の2015年に比べ22.0%減少）、経営耕地面積は36,822ha（同11.0%減少）となるなど、農業者及び耕地の減少が顕著になっています。このため、次世代を担う意欲ある担い手を育成することが急務であり、担い手の規模拡大や農地の集積・集約化に向け、農業者、関係団体・機関が一体となって取組を進める必要があります。

県では、「新晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」に基づき、本県の農林水産業が儲かる産業として確立するための各種施策の推進に取り組んでおります。なお、現行の生き生きプランは、今年度が計画最終年度となるため、本年3月を目途に、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」の策定を進めており、新たなプランでは、現プランを継承しつつ、この先の社会を見据え、内容の充実・強化を図ってまいります。

中でも、農地の集積・集約化については、引き続き、重点施策として位置付け、農地中間管理事業等を活用した規模拡大の推進などにより、生産性の高い経営体の育成を進めることとしております。

さらに、中山間地域等の農業・農村の活性化のための中山間地域総合整備事業や農道整備事業などのハード対策を推進するとともに、荒廃農地の発生防止や多面的機能の維持・増進のための中山間地域等直接支払制度や、魅力ある地域づくりにつながる農家民宿、直売所などの地域資源の活用を促進してまいります。

本年も引き続き会員の皆様と力を合わせ、粘り強く諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝とご繁栄を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

第 53 回岡山県農林漁業功労者表彰

岡山県の農林漁業の振興に献身的な活動を続けてこられた功績に対し、「岡山県農林漁業功労者表彰」が授与され、土地改良部門では次の5名の方々が受賞されました。

【知事表彰】

川上 修一 氏（湯野土地改良区 理事長）高梁市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の適正な維持管理に尽力されました。

地域の課題である畑地かんがい施設老朽化の解決に向けて、施設更新の計画的で円滑な実施のため、組合員の先頭に立って優れた指導力を発揮し、関係者や地元調整に尽力し、地域農業の振興に大きく貢献されました。



【農林水産部長表彰】

佐能 直樹 氏（落石堰土地改良区 理事長）井原市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の適正な維持管理や老朽化した水路等の整備に尽力されました。

卓越した指導力で組合員の取りまとめはもとより、周辺住民との調整役として積極的に取り組み、老朽化した水路の整備を円滑に進め、地域農業の振興に大きく貢献されました。



高山 操 氏（近平用水土地改良区 理事長）津山市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の適正な維持管理や老朽化した水路等の整備に尽力されました。

用水路の改良事業にあたって、組合員と関係機関との調整に尽力し、当地域農業の生命線である近平用水からの安定的な用水の供給と維持管理の軽減に努め、地域農業の振興に大きく貢献されました。



武久 源男 氏（邑久町土地改良区 理事長）瀬戸内市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の適正な維持管理に尽力されました。

揚水機場の長寿命化対策に取り組み、組合員のとりまとめ役となって施設の更新・補修整備に尽力され、地域農業の振興に大きく貢献されました。



三宅 隆 氏（一宮吉備高原土地改良区 理事長）岡山市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の適正な維持管理に尽力されました。

畑地かんがい施設の更新に向けて、組合員へのアンケートを通して今後の営農の意向を確認し、将来の地域農業の適切なあり方を画策するとともに、組合員への説明や調整等とりまとめに積極的に取り組まれ、地域農業の振興に大きく貢献されました。



岡山ため池保全管理サポートセンター活動状況

岡山県は本年度からの3か年で、防災重点ため池の安全性の確保に向けて、改修や廃止、低水管理などソフト・ハード両面から集中的かつ計画的に進めることとしています。

こうした状況を踏まえ「岡山県ため池保全管理サポートセンター」では、従来の相談対応に加え、市町村への支援強化として、防災重点ため池の点検を行い、積極的に改修・廃止の具体的対策を提案し働きかけを行っています。
(令和2年12月25日現在)

【相談対応】

相談者の9割が市町村担当者でした。

相談件数は132件で、内容の多くは漏水や技術支援、洪水吐・斜樋・底樋管等に関する相談が5割以上占めています。

また、現地相談は82地区行っています。



相談内容	
漏水	45件
老朽化	11件
管理の指導	17件
技術支援	26件
事業化の相談	22件
その他	11件
合計	132件

【点検・働きかけ】

現地点検 203 地区、働きかけ 128 地区を行っています。

単位：箇所数

各県民局	防災重点 ため池数	現地点検	働きかけ	改修			廃止		
					強化部分	相談対応		強化部分	相談対応
備前県民局計	1,990	82	48	28	12	16	20	16	4
備中県民局計	1,639	70	38	20	6	14	18	4	14
美作県民局計	645	51	42	33	24	9	9	8	1
合計	4,274	203	128	81	42	39	47	28	19



現地点検



働きかけ

岡山県の土地改良 題字:石井正弘書 第604号 令和3年1月25日発行

発行所 ●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル
☎086-225-0921 fax086-226-0068
総務部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F
☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp http://www.okadoren.or.jp
事業部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-273-2110 fax086-272-3937
事業部津山 〒709-4603 津山市中北下1300 津山市久米支所2F
☎0868-57-7661 fax0868-57-7664

